

## 印西市廃棄物減量等推進審議会会議録

- 1 開催日時 令和3年11月26日(金) 14時00分から16時10分まで
- 2 開催場所 印西市役所 204会議室
- 3 出席委員 小熊清委員、友野吉弘委員、遠藤康子委員、吉村仁委員、坂口育子委員、吉岡明委員、森内栄一委員、今村朱實委員、祢津俊之委員
- 4 出席職員 土屋茂巳環境経済部長、藤巻孝クリーン推進課長、泉田隆之主査
- 5 傍聴者 無し
- 6 次第
  1. 開会
  2. 委嘱状の交付
  3. あいさつ
  4. 自己紹介
  5. 議事
    - (1)会長及び副会長の選任について
    - (2)令和2年度一般廃棄物処理概要について
    - (3)第3次印西市ごみ減量計画における施策について
    - (4)その他
  6. その他
  7. 閉会
- 7 配付資料
  - ・次第
  - ・委員名簿
  - ・令和2年度一般廃棄物処理概要(資料1)
  - ・第3次印西市ごみ減量計画(資料2)
  - ・第3次印西市ごみ減量計画における施策について(資料3)
- 8 会議概要
  - (1)会長及び副会長の選任について
  - (2)令和2年度一般廃棄物処理概要について
    - ・印西市の概要
    - ・一般廃棄物処理概要
    - ・一般廃棄物処理経緯
    - ・ごみ処理現況
    - ・資源化事業
    - ・施設、許可業者
    - ・クリーン印西推進運動等
  - (3)第3次印西市ごみ減量計画における施策について
  - (4)その他
- 9 審議経過
  - (1)会長及び副会長の選任について  
(会長が選任されるまでの間、クリーン推進課長藤巻が仮議長となる。)

仮議長 議題(1)会長及び副会長の選任でございます。現在、市廃棄物減量及び適正処理に関する条例施行規則第2条第1項で審議会に会長及び副会長を各1人置くこととしております。同2条第2項で会長及び副会長は委員の互選としております。そのため、新たに会長副会長を選出することになりますので、皆々様宜しくお願い致します。まず会長の選出を行おうと思っておりますが、どなたか立候補、推薦、何かご意見等ございましたら発言もお願いいたします。

委員 小熊(前)会長、ベテランなので続けて頂いたら良いと思うのですけれども。

仮議長 経験豊富で以前も会長をされた小熊(前)会長が良いのではないかという意見がございましたけれども、皆様どうでしょう？

委員 意義なし。

仮議長 よろしいですか？ 今、意義なしというご意見がありましたので、小熊委員のご意向の方は伺ってよろしいでしょうか？

小熊委員 ~承諾~

仮議長 ありがとうございます。それでは、会長は小熊委員ということで、お願いしたいと思っております。それでは決定いたします。会長が決まりましたので、事務局に進行をお返しします。議事の円滑な進行にご協力いただきましてありがとうございます。

事務局 ありがとうございます。それでは小熊会長、議長席に移動をお願いいたします。それでは、議事に入ります前に小熊会長からご挨拶をいただきます。よろしくお願いいたします。

小熊会長 ~挨拶~

事務局 ありがとうございます。この後の進行につきましては、印西市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例施行規則第3条第1項で、会長が会議の議長となることを定めておりますので、小熊会長に議長をお願いしたいと思っております。

議長 それでは議長を務めさせていただきます。副会長の選出をお願いしたいと思っております。どなたか立候補して頂ける方いらっしゃいませんか？

委員 ~立候補なし~

議長 それではこちらから。会長が男性ですので、これからはやっぱり女性の意見がですね、いろいろな活躍の場で動いていただきたいと思っておりますので、女性の方をお願いしたいんですけれどもよろしいでしょうかね。じゃあ指名させて頂く形で坂口さんお願いできませんでしょうか？

坂口委員 ~承諾~

議長 よろしいですか？ ありがとうございます。では副会長は坂口委員でお願いすることと致しましたので、よろしくお願いいたします。

事務局 議事録につきましては、事務局の方で作成しまして、毎回2名の委員の方にご署名をお願いしたいと考えております。事務局といたしましては、会長を務めています小熊会長を除きまして、本日を配りました委員名簿順にお願いしたいと考えております。お願いします。今回の議事録の署名につきましては名簿順で、友野委員と遠藤委員の方をお願いしたいと考えています。よろしいでしょうか？

友野・遠藤委員 ~承諾~

議長 では議事録署名は友野委員と遠藤委員でよろしくお願いいたします。

事務局 事務局の方で会議録ができ次第、署名の方いただくような形になるかと思っております。

遠藤委員 自分は今回だけですか？ それともずっとですか？

事務局 名簿順に回りますので、今回だけです。

議長 次回はまた次の人になります。それでは、事務局他に説明ありますか？

事務局 他の説明は最後になります。

(2)令和2年度一般廃棄物処理概要について

議長 それではこれから議事に入らせていただきますので、まず議題2のところからお願いします。

事務局 ～資料1「印西市一般廃棄物処理概要」について説明～

議長 ありがとうございます。それでは、今説明していただきましたので、みなさんの方から御質問等ありましたらお願いします。どんなことでも結構です。

委員 廃棄物の処理で、クリーンセンターというか、処理施設がありますよね。そこにクリーン推進課の職員ではないのかもしれませんが、何人が派遣されていると思うのですけれども、それは何人ぐらいいらっしゃるのですか？ それに関わる人の配置の一部というふうに考えれば、そのようなことも記載したらどうかなと思ったのです。

事務局 そうですね。一回派遣されると2年後帰ってくるという形が多いです。私も2年間行ったことがあるのですけれども。人数は今のところ5～6、7人ぐらい印西市から行って、あと白井市や栄町からも何名か行っているような形です。印西地区環境整備業組合で雇われているプロパーの方もいらっしゃいまして、大体半々ぐらい。最近、次期中間処理施設とかが始まってまいりまして、そうすると派遣の方の人数がだんだん増えていっているというような状況もあるのだと思います。

議長 よろしいですか？ ごみ処理の方に関わっている人数ということですが。

委員 いや、まあなかなか難しいと思うのですが、おそらく総務関係で行っていて、それで、あとは作業員の方とかを指導しながら処理をしていくという、そういう形態を取られているのではないかと思うのですけれども。まあ、単に何人行っているのか、と。

事務局 所属につきましては、結構いろいろなところに派遣されている方がいらっしゃいます。総務の、庶務課というところがございますね、あと業務班、業務を行っている方、施設の管理を行っている方、次期中間処理施設を造る担当、また、平岡自然公園の斎場の方とかもいらっしゃいます。

議長 組合だから斎場もプールも一緒ですものね。

事務局 プールはですね、指定管理者になっております。

議長 プールの中の運営は指定管理者でも、設備が組合でしょう。

事務局 そうですね。組合が設置して、運営は指定管理者です。ただ、従業員が職員として行っているという訳ではないです。

議長 今のはどうです、よろしいですか？

委員 はい。

議長 他のご質問をお願いします。先ほどの説明の中に直接関係あることなら、ページを教えてください。この方が分かりやすいものですから。どんなことでも結構です。

委員 17ページの資源物の収集量で、これ色がよく分からなくて。

事務局 これが白黒になってしまっています。

委員 これは上から順番に当てはまるのですか？

事務局 そうですね。上から順番に基本的に当てはまっています。

委員 例えば令和2年の1番上の濃いグレーが、小型家電ということになるのですか？

議長 数合いますかね？ 1番下から言うと、ビン、缶、紙、布・・・。

事務局 濃いのが布でその上がペットボトル、その上がプラスチック容器包装で廃食油とスプレー缶と小型家電が割と小さいので、ギュッと入っているようなイメージですね。

議 長 小さいところに、小型家電とスプレー缶が入って、廃食油もそうですよね。それで、上から2つ目の、大きい薄いグレーがプラスチック製容器包装ですね。

事務局 プラスチック製容器包装が令和2年度で言いますと1,005,770で、対して廃食油・スプレー缶が7,470・32,000とかで、ちょっと小さいので、こちらの表の下の3つが1番上のところにギュッとなくなってしまっていて。自動的にエクセルで作りますので、そのような形になってしまいました。次回はカラーで印刷した方が良いかなと思います。すみません。

議 長 わかりました。下から順番にビン、缶、それから紙類がすごく大きな、全体の1/3ぐらいが紙になって、その上の黒っぽいのが布で、その上でちょっと薄いのがペットボトル、その上がプラスチック製容器包装で、最後の廃食油・スプレー缶・小型家電が1番上の黒い部分に3つ入ってしまいますという感じですよ。

事務局 はい。

議 長 ありがとうございます。

事務局 ホームページで公開する際に、カラーにしてから公開しようかと思えます。

議 長 同じ17ページの上の資源物収集量内訳の中には、欄外に書いてありますように有価物の集団回収分は入ってないのですよね。

事務局 はい。

議 長 そういうことですよ。

事務局 センターの収集とか、あとは拠点回収とかです。

議 長 私の方から1つ。18ページ、これが事業系なのですけれども、1番下のグラフを見ていただいて、まあ、その上の方の棒グラフでも同じなのですけれども、令和2年でござって落ちているのですよね、事業系の総量が。平成29年ぐらいのところと同じレベルなのですけれども、これの大きな要因というのがわかりますか？

事務局 そうですね。なかなか分析というのはあれなのですけれども、恐らくやっぱりコロナとかという状況で・・・。

議 長 事業活動が停滞したからということでもいいですかね。

事務局 と、いう可能性も考えられると思います、はい。

議 長 はい、ありがとうございます。どうですか？課長だったら。

事務局 あの多分、そういったことになるのですけれども、実際の数字ですとやはり元年から比べると可燃ごみが減っているのですよね。グラフでも現れているところですが、やはりその活動状況の、コロナの影響が多いのかなと。新聞報道になっている部分も、家庭系というのは、家で生活する部分が多くなったので、持ち帰りであるとか、家庭内で食事するということで増える傾向になっていて、事業系についてはその分自粛しているので、特に飲食店であるとか、その郊外の方がずいぶん減るといふ報道もありますので、そのような影響が当市においても現れているのかなと思います。

議 長 はい、ありがとうございます。

委員 事業系の増加によってこれが増えているというように勝手に解釈していたのですけれども、今、印西市は結構、いろいろな会社がこう作ったりしていますよね。

事務局 元年までは増えているのですけれども、今、会長が言ったとおり、2年度は減っていると、そういう話ですよ。相対的には事業系ごみは増えている傾向でございます。

委員 2年度が減ったのは経済活動が低下したので一時的に減ったから。で、これまではどんどん原単位やごみ量が増えていますけれども。

事務局 事業者の進出ということが増えている要因となります。

議長 原単位で見えてしまうと、人口で割りますので、印西市はまだ人口が増えていますので。

事務局 人口の増え方以上に事業者の方が増えてしまうと、どうしてもこの原単位とかというのは増えてしまいます。

委員 そういう感覚を持っているのですけれどね。

事務局 言わば、総量も減っておりますし、まあ当然、割り返した数字も減っているということです。まあ人口要因というのはなかなか、事業系を割り返すと、ちょっと動きが不透明になって、そういう動きとしては、やはり事業者さんが増えると、総量は当然、増えるようになります。ただ、2年度は、営業活動の状況の影響を受けて減ったのではなかろうかと、そういう事です。

議長 はい、ありがとうございます。他、いかがでしょう。

では、私の方からいいですか。23ページの集団回収量の推移の表なのですが、1番左の列の方の実施団体数が121をピークにどんどん下がっているのが現実ですけれども、この要因はどういうことになりますか？ 量的にも少なくなっているのですけれど。

事務局 全体的にというか、ここ最近で活動をやめるよ、と言ったところは、やはり、地域の町内会がやったり、高齢者クラブがやったり、子供会がやったりして、重複している部分があるのですけれども、やはり高齢者クラブとかがその活動をする中で、皆さんやっぱりその中でも高齢化しますので、そういった他の団体と集約したという事例もございます。あと、それに合わせて子供会の方も、学校で行ったり、その地域でやったりというのもあるのですけれども、子供会自体の活動が、やはりこう幅広くにというか、そこも集約して子供会単体としての活動をちょっとやめさせてもらうとかいうのもございますので、そういったものが少しずつ積み重なって、ここ1年2年で10団体ぐらい減っているというのが、ちょっと思い当たるところかなと思います。あと、学校の部活単位でやっていたところも、学校全体として取り組んでいるので辞めますとか。あと、実際に活動をやめていたところも、切りのいいところで正式にやめるとかという届出もあります。そういった有価物集団回収自体はやりたいのだけれど、その活動の幅の部分をやっと縮小するような形で、辞められている団体の例はございます。

議長 そうですね。あの、どうですか？ 学校の集団回収がやっぱり少なくなっているのですかね。

委員 買取価格がかなり低く、最近では抑えられてしまって、その影響がありますよね。あと、つい先日も回収したのですが、アルミ缶などの回収はかなり目減りしていて、以前はトラックいっぱい運んでいたのですが、今は2/3程度に落ちてしまっているのが現状です。

議長 児童や生徒数も、どんどん減ってしまっていますのでね。はい、ありがとうございます。

委員 22ページ、可燃ごみの組成割合ということですね。令和元年は可燃プラという表現をされていますね。それで、令和2年はプラスチック類ですか、ものすごい量が増えていますよね。これはどういう意味なのですかね？

事務局 すみません、この(1)と(2)はですね、別の調査なのです。クリーンセンターで2種類行っております、まず上の1番の方は、ごみ集積所の方から、ごみ袋を1集積所あたり3袋くらいピックアップしまして、そのごみの中の内容物を調べるというような、分析調査です。家庭から出された状態で、どれくらい燃やすごみの中にそうではないものが混ざっているか、そういったものの調査になっております。一方下の(2)の方は、クリーンセンターの炉の中ですね、そちらの方から回収して、その中のものを分析したものであるというような形になっております。事業系のものとかも入っていたり、収集したものだけではなくていろいろなものが入っていて、あと、出されてからちょっと時間が経っているものありまして、ちょっと乾燥していたりとか、そういったものとか

もあって、割合的にはちょっと上の方は、だいぶ違うものになっているというような形ですね。こちら、年4回ぐらいクリーンセンターでやっているのですけれども、そちらを平均してグラフ化しているということです。

委員 いや、これでちょっとやっぱりこれから考えていけないといけないかなと、私は勝手に思っていますのは、このプラスチックですね、燃やすごみの約3割がプラスチックだったら、これは燃えたら全部CO<sub>2</sub>になっていく訳ですから、地球温暖化をどんどん推進していく事になりますよね。

事務局 そうですね。今、製品プラスチックを燃やすごみで出すような形になっておりますので、どうしても燃やすごみの中にプラスチックが混ざってきてしまいます。今、ちょうど、製品プラスチックを資源化していこうという動きが見られておりますので、今、ちょうど検討しているところではございます。いずれ変わっていくのではないかと思います。

委員 変えなきゃいけないですね。

事務局 そうですね。今、クリーンセンターと協議を進めているところです。

議長 ということでよろしいですか。

委員 ちょっとその関連で。ごみ質の、クリーンセンターのプラスチック類と、それから家庭から出てくるプラスチックの合計の量と、どちらの割合が高いのですかね。ごみの組成とごみ質ということで、分析の方法がそもそも違うので、単純には比べられないかもしれませんが、家庭から出る全量に占めるプラスチックの割合と、焼却場で焼却されるごみの中のプラスチックの割合と、どちらが多いのですか。

事務局 そうですね。グラフから判断すると、2番の方が多そうに見えますが。

委員 組成としてだから、そもそもちょっと違うかもしれませんが、下の方のプラスチック類の方が、多いということであれば、事業系から入るものが多くなってくるというようなことを予測できると思うんですけども、その辺の分析というか、見解はどうなのですかね。

議長 事業系はやってないでしょう。

事務局 事業系は展開検査というもので、事業系の収集車の方を調べたりとかはやっているようなのですけれども、こちらの結果については把握しておりません。

議長 今、おっしゃられた通り、おそらく事業系の方がプラスチックの占める割合が、多分多いから、こういうグラフになるのだらうと思いますよ。

委員 組成を分析されているのであれば、その辺のことをもう少し詳しくやられると、そのどちらに原因があって、どういうことをしたらそれが減ってくるかというのが見えてくると思うのですよね、

議長 プラスチックに関しては国の方でも、今、見直しをしていこうという話が出ていますので、家庭系の分とですね、事業系の分をですね、今後どのように扱って、どのように減らしていこうかというような話の中に当然出てくるかと思っておりますので。これは実際にね、家庭から出たやつだけを見た組成分析が上で、下が事業系も一緒にたにまとめて、ごみピットの中のね、単純に量ですか、割合がどうなっているかの世界ですのね。

事務局 事業系のプラスチックについては、産廃に行ったりするものもあるので、そんなに混ざるのかな、という感じはするのですが、何分ちょっと、細かいところまで分析できていないものですから。

議長 そんなところでよろしいですか。事業系の方も全部、持ち込みでとらえられればいいのですけれどもね。

委員 そもそも、分析方法が違うのですよね。組成と質と書いてあるし、項目も全然別だから、それぞれの仕分けが違うと思うので、それを単純に比べるのはどうかと思うのですけれども、何となく見えるところはあるかと思います。

- 議長 はい、それでは、この件はこれくらいにして。他に、何かございませんか。皆さん疑問に思ったこと、何でも。
- 委員 以前から疑問に思っていたのですが、プラスチックごみって、リサイクルでも集められるのだけれど、半分ぐらいは焼却炉で燃やされるって聞いたことがあるのですが、それって今でもそうなのですか？ なんかプラスチックを入れると燃焼率が高くなると、以前聞いた事があるのですね。だから、ごみの分別とかするではないですか。だけど、したのだけれども、半分は燃やす方に回されてしまうという、そんなことをちらっと聞いたものですから、それってちょっと、ずっと疑問に思っていたものですから。
- 事務局 基本的には、資源物として集められたものについては、資源物でちゃんと処理されています。容器包装プラスチックであれば、容リ協のルートというものがあリまして、そちらに則って、業者さんに行って、資源化されたりとかするのです。
- 事務局 皆さんが排出されたものの、先ほど、出荷量と収集量の話が出ましたけれども、一部、異物とかは焼却に回っている部分がありますが、別に資源物は中間処理場で選別して、出荷できる状態にして出しているのですけれども、その先の話では、業者が材料として使った後の残渣を、熱エネルギーに入る比率というのは、半分だとか、かなりの量が燃やされているという話もありましたけれども、印西市の集めた中で、半分をクリーンセンターの燃料にするようなことはしておりません。資源化の中で、一部そういう、選別加工の中で焼却に回っている部分はありますけれども。ちょっとその時点の考え方でちょっとずれてくる。
- 委員 基本的な考え方として、焼却の効率を上げるためにプラスチックを使うという事は無いわけですよ。他の市町村はわからないけれども、印西クリーンセンターの場合は無いという事で。
- 事務局 熱量の問題で分別する、しないという議論は、他の自治体で使われている例もあるとは思いますが、印西の場合は、資源物を助燃の燃料にするという事はしていない。
- 委員 わかりました。ありがとうございます。ちょっと、長年、どうなのだろうと思っていたものですから聞いてみました。
- 議長 ちょっと資料が今、お渡しできなくて残念なのですが、国の方の集計ですと、プラスチックのですね、完全にプラスチックとしてリサイクルされる部分は、25%程度。全体のプラスチックの約57%、半分以上は、燃やされるってという言葉あれなのですが、日本はそれも、リサイクルの一部だっていうふうな考えでちょっとヨーロッパとは違うのですけれども、熱回収という方法で、エネルギーとして使っているというのが実態なのですね。あと残りの約20%は、埋め立てられたりというのが実際です。ですから、特にプラスチックの混合で出されている、容リ法のラベルだとかキャップだとかというのは、そのままでは利用できませんので、単純で出されているものが、やはり再生ができるのですよね。ですから一生懸命皆さんが出してくれているペットボトルなんかは、率としては、リサイクル率、再生率で非常に、高くなっています。またプラスチックに戻ったりしているのですけれどもね。残念ながら半分以上は、燃やされているという。ただ、燃やしたりする訳ではなくてですね。熱回収をして発電に使ったりとか、コークスの代替に使ったりとか、セメント作る時に使ったりとかいろいろな形で使われてはいます。ただね、出してこう一生懸命分別してね、頑張ってお出しているのですけれどもね。残念ながら混ざるとね、製品化のところまで行きつかないというのが実態なのです。それで国も何とか見直そうということで動いてはいます。
- 委員 以前ね、それだったら分別しない方がいいのではないかと、なんて、当時思ったこともあったものですから、ちょっと質問させていただきまして、ありがとうございました。

議 長 他にいかがですか。

委 員 有価物の回収についてなのですけども、これから、どんなふうになっていくのかなというの。やっぱり今、価格が、古紙とか、アルミ缶とか、下がってきてしまうと、なかなか業者さんに有価物の対応をお願いしているのですけどね。つい最近もペットボトルとか、ビン類は有価物回収にはできないという話になってきてしまうのですよ。その傾向というのは、これからどのようになっていくのかというのは、思いがあるのですが、いかがでしょうか。

事務局 活動団体さんの地域活動に使えるお金というのは随分大きな影響があるかと思えますけれども、奨励金を出している市の立場からしますと、活動団体さんへの奨励金は、かなり近隣から見ても高い水準で、何とか財源を確保しておりますので、うちの方もその水準はなるべく維持しようと、財政と交渉しようと思っておりますけども、多少、市場で減ったにしてもですね、地域の皆さんには、有価物集団回収ということで、環境教育の一環でもございますし、地域コミュニティの一環だと思っておりますので、ぜひ続けていただければと、私どもとしては考えております。

委 員 ありがとうございます。町内会としてはなるべく有価物ということで、今後進めていきたいと考えております。

議 長 買取価格が、市場の相場でどんどん下がっていますので。今上がっているのは、スチール缶の鉄と、アルミの方は安定していますけれども、プラスチックの方はもう中国が輸入を止めてから一気に業界がドーンと下がってしまいましたから、ペットボトルは、有価物としては、多分集めてくれないと思いますので、市が行政回収で一生懸命頑張ってもらって。

委 員 市の補助金が頼りというところで、学校はやっていますけどね。補助金が結構いただけるので。キロに対する補助金がいいのですよね。

議 長 補助金の方は、重さでいきますので、ペットボトルはたくさん集めても軽いし、アルミ缶もたくさん集めても軽いので、紙類をたくさん集めていただいた方が、奨励金は、しっかりいただけるのかなということで。どちらにしても、資源ですからね。一生懸命リサイクルしていただける方がいいかと思えます。

委 員 多分、行政の中の話になると思うんですけど、この辺が温暖化対策に寄与できるということであれば、CO<sub>2</sub>の削減の部分で何とか補助という形で、結局 CO<sub>2</sub>についても経済的な取引ができるような、そんなような状況にだんだん変わってきていますから、だから中で例えば、環境保全の分野から少し出してもらおうとか、そういう制度を考えられたらと思うんです。廃棄物だけでなく、温暖化対策のその中から捻出するとかということで、その仕組みをちょっと変えてやられると、少し出て来るかなという感じがするのですけど。

事務局 どのようなやり方がいいかというのは、常に考えていかなければいけないかなとは思っています。

議 長 そうですよ。今、おっしゃられたように、特に、子供さんたちにはね、一生懸命になって集めていただいたのに、高く売れないからって簡単に辞めちゃうわけにはいかないですからね。温暖化対策ですよ。そちらの方の環境問題の方にとらえてもらえればいいわけですけどね。

委 員 例えば、プラスチックなんかはもう最たるもので、プラスチックを減らした分のCO<sub>2</sub>に値したものを補助するとかいうような、そういう制度をつくられたら、何かこう、少し進むような気がしますけれども。

議 長 なんとか国の方針として、プラスチックを減らすのはそういう形ですよ、目的がそうなのですよ、としっかりとらえて、しっかりインセンティブでも講じてもらえれば、それでいいのかと思えます。他はいかがですか。イオンさんのところでは、店頭回収で、今の話題のプラスチックですけれ



ども、白色トレイだとか透明のあれとか、集めていただいているのですけれども、あの数字というのはどうなのですか。コロナになってから、当然、容器が廃棄扱いになっていますから、お客様いっぱい出してくれているのですけれども、増えたのでしょうか？

委員 ちよつと数字をつかんでいないのですが、増えていると思いますよ。  
議長 私も調べたのですが、何%かは店頭回収で集めていますという数字が出ているのですよね。環境省の方でも確実な数字じゃなくて、これは業界からもらっている数字ですからという表現しかしていないのですけどもね。店頭回収で出してくれている白色トレイなんていうのは、製品が均一でしっかり皆さん洗って出してくれますので、あれは資源化率が単体では非常にいいと言われているのですよね。

委員 そうですね。ただ、やっぱりメーカーさんの問題だと思うのですが、先ほどサーマルリサイクルに回っているという話がありましたけれども、やっぱり醤油から何から、すべて今、プラスチックなので、今、世界的に詰替えをビンとか金属で、というような動きが最近出てきたので、あれがやっぱり広がりますと、やはりメーカーさん、それは選ばざるを得なくなっているのです、やっぱり醤油のビンでも、出せるレベルまで水道で洗うと逆にエネルギー量は増えますので、結局、洗剤だ水だということに頼らずにプラスチックが回収できるようになるのが一番ベストなので、そういう今の世の中の動きが、イオンとしても取り組んでいるという姿勢ではいるのですけれども、まだなかなか、始まったばかりです。

議長 一面だけとらえると、いろいろな形ですごく頑張っただけであれしていても、ライフサイクルで見ると、「そのために何エネルギー使ってしまったの」、「何CO<sub>2</sub>出しているの」という話になってきちゃうと、無理にやらないでやめたほうがいい、なんていう極論を言う人もいらっしゃるのですが、ただ気持ちとしてはね、できるだけ、なんでもやれることは頑張っただけでやりたいというのが、私たちの心情ですよね。

委員 ごみの中になんかのプラスチックというのは、家庭でもね、もうほとんど、タレとか、油のついたものなんて、可燃ごみに入れざるを得ないですよね。

議長 他にいかがでしょう。では、こちらの方の一般廃棄物の処理概要については、以上で一旦よろしいですか。では、次の件、お願いします。

### (3)第3次印西市ごみ減量計画における施策について

事務局 ~資料3「第3次印西市ごみ減量計画における施策について」について説明~

議長 ただいま説明していただきましたので、質問をお受けしたいと思います。いかがでしょう。

委員 ちよつと今日初めてなので、教えていただきたいのですが、この審議会の役割とか意義なのですか、もうこの第3次ごみ減量計画ができていて、それで、この役割というのは、例えば、それが具体的にどう進んでいるのかフォローアップしていくのか、或いは、具体的な行動計画をバリエーションとして作っていくのかとか、これを達成するために何をしたらいいのかとか、それを達していくのかとか、何が委員に必要とされているのかとか、ちよつとすいません、1回目でちよつと掴めないで、何か意見を言ってもそれが反映されるのかとか、そのあたりをどなたかご説明いただけたらありがたいです。

議長 ちよつと私の方から簡単に。こちらのごみ減量計画、昨年度1年間かけて、委員さんに検討していただきまして作り上げたものです。今、実施項目のこちらの方の先ほど説明したところからあったのですけれども、これを具体的に大きく、こんなことをこういうふうに行っていきますよという説明をしていただいておりますので、これが今後、実際の行動としてですね、行政から

動き出しますよというものの内容です。ですから、ストーリーがまだ、これからすぐできるものもあれば、検討するというようなものが含まれているという、そういうような状況です。

委員 それを検討していく訳ですね。

議長 ですから、これの内容について、こうしたらいいのではないかと、ああしたらいいのではないかと、これはどうしようにするのですかというのは、もちろんご意見だとか出していただいて。もちろんその場ですぐできるものとそうでないものがありますので、ただこれ、十年間の計画ですから、自由にどんどんやっていこうというような形になっています。

委員 この資料がですね、昨日の夜届いたのですよ。で、私は心配で、ちょっとホームページを見ていたのですが、ちょっとなんかよく読めなくて、何か、それで、ちょっと何か意見言おうと、一生懸命一夜漬けをしたのですが、これだと何かまともな会議にならないなという感じがあったのですけれども、毎回そうなのですか。前日に届くのですか。

事務局 今回ちょっと資料が遅れました。申し訳ございません。なるべく早く送ろうとしていたところではございましたが、会議の準備の方が遅れてしまったところもあるし、ちょっとバタバタしてしまったところもございまして、大変ご迷惑をおかけしました。

委員 くれぐれも、もうちょっと時間をいただかないと、また同じにはできないかと思っておりますので。よろしくをお願いします。

事務局 今後の事業の進捗についてまとめる会議の場を持ちながら、進行管理の部分であるとか、指摘であるとか、そういった形で、ごみ施策を進めていこうと思っていますので、きちんとした意見をいただけるような、期間は今後確保したいと思っています。すいませんでした。

議長 今日でなくても、いろんなご意見だとか、そういうふうなものを出していただいて、それをどんどん反映していくというような形でいけますので、今はとりあえず今の状況の中から、時間の制約もありますので、もしご意見だとか要望があればお聞かせ願いたいと思います。

委員 早速いいですか。なんかやっぱりごみの発生抑制というのが本当に一番アクション1として、すごく大事だと思うのですけれども、ご意見は出ていましたけれども、プラスチックごみは削減すべきものですね、そういうプラスチックごみの削減という項目が、削減のところに入っていないので、何かこれって、ここ数年、マイクロプラスチックの問題とかがいろいろ言われるようになりましてけれども、それが実はすごく深刻だったわけですね。私自身もマイクロプラスチックの事は知らなかったもので、市民も勉強して行って、同時にこう、何か変えていかなければいけない文化だと思うのですけれども。例えば、会議で、このプラスチックのボトルを廃止するか、ある市では、もう実践されているのですね。やっぱり、自治体とか市が変わると、市民も変わるみたいなのを見てきているので、例えば、市としてどのようなアクションを市役所でしていくのかとか、そういうのもすごく大事だと思うのですけれども。盛り込めないとしても、日々、そういうことを率先してやっていただきたいなと思っておりますね。

事務局 そうですね。プラスチックの資源化につきましてはですね、検討が今、始まっているところです。委員 資源化ではなくて、削減です。

事務局 そもそも無くすという、概念をもう少し出すという事ですけども、当然かと思えます。

委員 自治体でもゼロ宣言しているところもいくつかありますよね。ですから、ここは海が遠いからいいという訳ではなく、タバコをポイ捨てしたらマイクロプラスチックが出てきてしまうのであれば、やっぱりもっと具体的に、プラの削減には何をしたらいいかっていうのが市民に分かるように。これは喫緊の課題ではないかと、だから削減の中に入った方がいいのではないかと思います。いいですか。あと、都内とかでマイクロプラスチックストーリーという映画ができていて、そのの

上映会なんてしているのですけれども、たとえばそういう映画を勉強会で上映してもらって、みんなで見ると、そういうことも率先して、勉強会の方に入れていただければと思います。続けてよろしいですか。ちょっと準備ができなかったのも一つだけ。生ごみの削減というのが、やっぱり重要なのだなという事が、改めてデータを見て思ったのですけれども。私、10年前に、この補助金で電気式の貸してくれるという事で、真っ先に借りてやったのですけれども、見事に挫折したのですね、それは、電気を使って簡単にできるのですけれども、例えば入れる時にどのように入れたらいいとか、できたものをすぐ堆肥になるのではなくてしばらく寝せて、混ぜてという、結構、資源化というのは簡単ではない訳ですね。私は何かすごく、挫折感があつて。もう何年もやっておられるのですけれども、やっぱり市も同じスタンスで、補助金出しますよとやってらっしゃいますよね。ちょっとよその自治体を調べてみたのですけれども、渋谷区などは、やりたいと思った人が、そのホームページに行くと、候補の機器が出てくるのですね。つまり市民のハードルを下げる。それを何とか工夫していただけないかと思うのですね。で、あともう一つ挫折したのは、私、団地に住んでいるのですけれども、まじめにやるとどんどんできてしまって、それを堆肥にしないといけなくて、溜まっていつてしまうのですね。私、自己完結してやっていたので、そこでちょっとストップとか思って、何か忙しくなつて、ちょっとストップしてしまつたのですけれども、ご自宅が一軒家の方は、庭さえあればどんどん埋めていけばいいからまた別だと思つたのですけれども、印西市の場合は、団地のエリア、私はニュータウンエリアなので、どんどん若い人が、ファミリーで越されているのですね。一方でこちらの一軒家のエリアとか。ちょっと二刀流でしっかり考えることが必要かなと思うのです。それから、最近ちょっと都内で、若い人達と交流して、学ばせていただいて気が付いたのですけれども、都市部で、コンポストで循環させようという動きが今の、渋谷区と港区かな、あそこはもう本当に一軒家よりもマンションが多いですから、そこですごく進んでいて、さっきちょっとLFCコンポストというのが今流行つていて、若い人がすごくみんな取り組んでいるのですね。これ、バッグ式なのですよ。こうやってバッグで使えるという。誰でも取り組みやすい形になつていて、でもこれも、ほとんどの人まだご存じでないで、でも行政でも、渋谷区と、港区は導入して、どんどん使つて下さいね、とやっているのですね。ここで教えてもらったのは、コミュニティコンポストなのです。だから、できたものを循環させていくところまでやるのですよ。みんなですべてを持ち寄つて、どんどん溜まってしまうよね。その熟成をみんなですべてやって、それで新たに野菜を作つたりとか。それを半径2kmくらいでやるという、若い人すごいなと思つて感心したのですけれども。ですから、このコンポストも、ただ、それぞれの家で自己完結してしまうと、私みたいにみんな挫折していると思うので、何かこう、その辺の仕掛けとか、コミュニティ活動にするみたいな、コロナでもできますよね。そういうコンポストの考え方があつたのか、と、びっくりしたのですけれども、ですからちょっと新しいやり方とか、紹介していただいて、あと、ちょっとデータが出ていたのですけれども、これはどんな機種を申請したかというのは、データとして残っていますか？ というのは、最初の一歩の時に、何を買つたらいいかわからないのですよ。今まではのんびりやればよかったのですけれども、地球がだんだん大変になつてきたので、本当に生ごみをちょっとでも減らしていくという、みんなですべてをつなぎながらやっていく、みたいな仕組みを作つていった方がいいと思うのですけれども。

事務局

マンションにお住まいの方に向いているタイプと、一戸建てに向いているタイプがあります。堆肥ができるようなタイプは一戸建ての方が向いていると思いますし、乾かすだけみたいなタイプは、そのまま燃やすごみに入れられますので、比較的土地のないところでも活用できる。

委員 まだ電気型というのいっぱい使われていますけれども、今は微生物を使って、どんどん浄化させていくみたいなのが急務になっていると思うのですけれど。

事務局 申請している方は電気式の方が多いですね。

委員 ですから、なんか、そのあたりのスタンスが全然、10年20年変わっていないので。今こそやらない時代なので。それで、若い人が多いのですよ、ニュータウン。みんな子供の教育のために、そういうのを実際やるというのがすごくいいのですよね。それで、みんな嬉々としてやっているのですよね。それが、びっくりしたのですけど。「すごく楽しい」ってやっているのです。ごみが汚いとかではなく、楽しくてかっこいいよみたいな、おしゃれだよみたいな形で発信していけば、若い人もついてくれると思うのですけれど。

議長 いろいろなご意見ありがとうございます。今、いろいろお話していただいた、具体的なものは、これからウェブを使ってですね、皆さんから情報やアイデアをいただいたり、情報配信するような形もこの中に含まれていますので、それは行政の方と、それから市民の方とタイアップしながら進められると思います。はい。ありがとうございます。今、お聞きしたのは全てメモってありますから大丈夫です。よそのところでいいことをやっているのは、どんどん取り入れていくべきだと思います。他にいかがでしょう。どんなことでも。

委員 2ページの2-2ですね。資源回収の中で、③ですか。プラスチックに係る資源循環とかいろいろ書いてあるのですけれど、だいたいいつ頃なのですか。これ2010年までとしたら、もう来年で残っているのは7年とかになってくる訳ですよ。2010年に達成するためには、もうそろそろこのルールを変更していかないと、と私は思っているのですけれども。基本的なルールを変えた、2010年をターゲットとした分別表ができるのかということをお聞きしたい。

事務局 どのようにやるかという形で今、業者から聞いたりしていますので。やるという前提で動いている話ではあります。

委員 わかりました。

委員 全体についてちょっと感じている事なのですから、この表の中で実施状況と課題ということで整理されているのですけれども、実施状況でしたら、文章だけでなくもう少し具体的な数字を入れていただかないと、ちょっとわからないですよ。これやりましたという、やったのはわかるのですけれども、どの程度やってどうなったのか。そこから出てくる課題はどうだったのかということが整理されないと、次のステップに進めないように思うのですが。全体通してそういうことがすごく危惧しているのですけれども、その辺は、時間とか、スタッフとか、いろんな関係があって出来ていないのかもしれませんが、そこをもう少し頑張ってもらいたいと思います。

議長 そうですね。検討するとかでなくて、具体的にいつまでに何を、という。

委員 例えば1番目の、広報いんざい、市のホームページに載せていると言ったら、いついつのホームページに載せて、反響はどうだったのか、具体的にこう一つ一つ落とし込んでいかないと、この事業がどうだったのかという評価は難しいと思います。

議長 今回は1回目ですので、項目だけとりあえず出していただいたということで。

事務局 どのような事業が行われたのかという説明ができればと考えていたところです。

委員 1年なので実施状況として、それをきちんと出てこないとは思いますが、ただ、それでも少しやったのであれば、その少しのことも書いて、そこから見えてくる課題を整理すると思います。

議長 それがPDCAに結びついていく訳ですからね。ありがとうございます。

委員 ごみ処理の手数料のことなのですが、ここは事業所の扱いになりますよね。そうすると、印西

クリーンセンターで引き取ってくれないのですよね。粗大ごみを。ということは、どこで処理をするかという、本埜共進に持っていくのです。本埜共進は買い取り価格を無茶苦茶上げたのですよ。だから今、市の予算では、とてもじゃないけど、ごみを処理しきれないのですよ。だったら、有料化してもらっても、私的な企業の引取価格よりも安い金額であれば、十分にね、事業所のごみも処理できるというのは実は思っていて、教育委員会の校長会の方ね、予算要望のところにも自分は、予算を上げてくれと、でない学校は結構ごみが溜まって、木もいっぱいありますので、という、実は困った問題があつて。有料化というのは今これに書いてあつたので。有料化していただいても安い金額で有料化していただけるのであれば、その予算内でたくさんのごみを処理することができるし。いいな、と思っていたのですが。あともう一つは、資源回収なのですが、私が木刈中で教頭をやっていた時にPTAがすごくしっかりしていて、ほとんど、負担をかけることなく、業者が各自治会を回ってですね、資源回収をするのですよ。毎週水曜日と土曜日。業者がですね、生徒の録音テープを流して、中学校でやっちゃうよという形で流したのですね。だから、継続的に回収が可能なのですよ。莫大な金額、莫大だと言っても百何十万ですけれども、収益が。印旛中で教頭をやったときは、年間7万円程度で。これは何か、要するに回収を学校が行っていたから。回収がこう、思うようにいかないのですね、小学校でも今は年間3回やっているのですけれど、10万いかないのですけれどね、補助金をいただいても。だから、そういう資源回収の量、これは実現するかどうかは別ですけれどね、アイデアとして話せばいいよっていうことで聞いていただきたいのですけれど、そういう何かもっと工夫をすれば、資源回収の量も上がるのではないのかなというのは、実はちょっと、考えていたのです。あの方法はいいなと思って。学校の負担は無いし、保護者の負担無いし、業者が勝手に行つて勝手に回つて、資源の回収のお金が下りてくる訳ですから。学校としては非常にありがたい。回収量を増やすのであれば、方法はいろいろあるのだろうな、と。別にいいということであれば、予算がこれ以上かかっているようであれば別ですけれど、やり方は結構、探せばあるのかなという気はしています。以上です。

議長 ありがとうございます。今のご意見として、クリーン推進課の方で考えていただきたいと思います。

事務局 活動団体と業者が、どのような形が取り組みやすいかというのは、その地域地域で異なるのですけれども、有価物集団回収の成果となると、活動団体数であるとか、回収量ということで、どうしても評価的にはなりませんし、最終的にお金のかけ方という、集団回収の方が行政経費としては安くなったりしますので、増えた方がいいんだろうということは一つの側面として言えるのですけれど、まずはその自分たちの地域で、ごみにしないで資源物として分けましょうよというのを並行して、意識として向上するような取り組みとして、その業者が回収することで、意欲が減少しないですね、一緒にこう、上がるような形だったらいいのですけれど。そういった好事例として取り組まれている例も、いろいろな地域があるという事で把握しておりますので、どんなやり方かというのを一例として紹介させていただくこともできるのかなと。集積所で頻りにやるところもありますし、地域コミュニティと掛け合わせてやるような形もありますので、いろいろな地域地域の取り組みがあるのかと思いますので。

議長 ありがとうございます。他に何かありませんか。

委員 私、ちょっと食品ロスの事がちょっと気になっていて、ホームページを見させてもらったのですけれども、フードバンクのことが書かれていたのですけれども、これ、フードバンク千葉がやっています、これ、募集している期間はわずかなのですよね。ということで、それを逃すともう何もな

くなってしまうような、そんな感じがするのですけれども。市としてフードバンク千葉がやっているような、そういう団体を育成していくとか、そういうような考えってあるのですか。これは社会福祉協議会とタイアップしてやっているのですけれども、その辺で何かうまくできないかなと思うのですけれども。その中で、この辺が最重要課題だ、みたいなところで位置付けて、進めていると思うので、その辺がもう少しできるといいかな、というふうに思っています。市民団体の中でもそういうNPOとかそういう団体があれば、或いは無ければそういう団体をうまく作るとか、そんなことができるといいかなと。

事務局 当然、今おっしゃったことは大事かと思っていて、そういった団体が増えるというのは、当然望んでいるところではあります。ちょっと今年できなかったのですけれども、個人的な考えとしては、やはり目に触れる場所をもう少し増やしたいと思っております。千葉市とかは、市役所のロビーで集めている。たまたま市役所というのは社会福祉協議会が近いですので、メリットがどこまであるかというのはあるのですけれども、そういった公共施設で集めたケースというのもあります。あと、環境フェスタとかもやっていますので、そういったイベントの時に臨時的集める場所を設けたら目につくのではないかとか、あと、防災訓練とかですと今、7日分貯めましようとかローリングして備蓄ましようとかありますけれど、どうしてもその中で廃棄なり、賞味期限が近くなるものがありますので、避難所に避難する時に自分の食料を持っていくような感じで、そこでフードロスの集めるイベントを並行してやるかですね、目につくような形はちょっと取り組みたいなどは思っています。どこまでできるかですけれども。そういったことを目にしていくと、そういったNPOだったり市民団体だったり、フードバンクだけに頼らなくても、集めて送っていただくとか、あとは今、後継者の問題とかあって、そういったものを支援している団体とかも見ましたけれども、そういったところとうまくできるかとか、ちょっとこれ個人的な意見が多いのですけれども、ちょっと目につくような取り組みはしたいなと思っております。

委員 私、事前にちょっとお知らせした姫路市のマッチングアプリを使って、あれ民間のアプリだと思うのですけれども、あのようなこともちょっと考えていただけると嬉しいなと。場合によっては視察に行かれたらいいと思うし。重要課題として取り組むのであれば、もう少し力を入れたらいいのかなと思っています。行政間でお聞きすれば本当のことを教えてくれるかもしれないので。

事務局 キーワードとして、今当たり前になっていますので、いろいろなそういった、アプリの活用とかも含めて考えていきたい。

委員 おさがりマルシェでしたっけ。あのようなものも同じですよ。場合によってはメルカリみたいな画面に進んでいってしまうといけないかもしれないですけど、そこはうまく行政が入ることによって、健全に動かせる、そういう仕組みづくりというか、そういうものを何か、考えていただきたいなと思います。あと、もう1点なのですけれども、これ環境教育の関係ですごく大事だと思うのですよね。その中で、学校で社会科で、校外学習とかで行かれるのですかね。

委員 小学校は、低学年で印西クリーンセンター見学というのをしています。

委員 そうしたら、先生向けのですね、なんか、指導書というか、いろいろな情報が入ったようなハンドブック的なものを作って、お配りすることはできるのですかね。もし、そういうことを検討していただけるなら、検討していただきたいなと思います。

議長 実際に私もやっているのですけれども、出前講座という形で。小学校に行ったり、中学校に行ったり、それなりのものを作って。WEBの方でも、環境省とかあちらの方でもいろいろないいものもありますから、そういうものを利用してやっていますが。

委員 一般的なものもちろんあると思うのですけれども、印西市のデータをうまくまとめたものを先

議 長 生のハンドブックみたいな形でまとめて、そういったものを作られたらいい。  
身近だね、自分たちの周りがこう見えるようにね。  
他にいかがですか。時間的にはそろそろ2時間近くになりましたので。今回、いろいろな施策  
がお配りしているものの中にありますので、この後、これ以上長く続けることはできませんので、  
情報がありましたら、クリーン推進課の方にですね、こういうアイデアもあるとか、こういうよう  
なものがあるとかいうのは、どんどん出していただいてよろしいですよ。それを、もっと具体  
的に、すぐできるものはもうやっていただくという形で、そうでないものは、検討してやれる環境  
を整えていくとかというようなことのための基礎、元ですものね。これはね。そういうふうな形で  
進めていきたいと思います。あとは、今までのところの、質問で、もう一つとかありますか。なけ  
れば、一応質疑については締めたいと思います。

印西市廃棄物減量等推進審議会の会議録は、事実と相違ないので当審議会は、これを承認する。

令和3年12月24日

印西市廃棄物減量等推進審議会

委員 友野 吉弘

委員 遠藤 康子